★ベネズエラへの外部干渉＝アジア・アフリカ人民連帯機構（ＡＡＰＳＯ）声明

アジア・アフリカ人民連帯機構（ＡＡＰＳＯ）常設書記局は２月７日、首題の声明を発表した。全文は以下の通り。

ＡＡＰＳＯは主権と独立、安定を守るベネズエラの闘いを支持し、ベネズエラへのいかなる介入も拒否する。それは内部問題への不干渉など国連の諸原則とバンドン会議の諸決定に沿ったものである。

米欧諸国の干渉が、ベネズエラ社会の対立を深め、紛争を拡大することを狙ったものであることは明らかであり、この国を内戦に引き込みかねない。

ＡＡＰＳＯは、国連と国際社会がベネズエラと人民へあらゆる社会的、経済的支援をして、内部対話をおこなえるよう援助するようよびかける。また合法的かつ民主的に選挙されたニコラス・マドゥーロ政権を支持するとともに、対話を通じた問題解決をめざすメキシコとウルグアイのイニシアチブへの支持を再確認する。
（以上）

★主権と自決権を擁護して＝ベネズエラ情勢について日本ＡＡＬＡの見解

緊迫する南米ベネズエラの情勢について、会員のみなさんからさまざまな意見や疑問がよせられています。それについて役員会で日本ＡＡＬＡとしての立場を次のように確認しました（２月８日）。

深刻な経済危機の下、与野党が激しく対立し、それをめぐって国際社会の意見が大きく分かれ、ベネズエラの情勢は、同国の平和と安定のみならず地域や世界の平和にとって重要な国際問題になっています。

日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会（日本ＡＡＬＡ）は、1955 年平和５原則とバンドン１０原則にもとづき、主権、民族自決権の尊重、内政不干渉、紛争の平和的解決という原則をかかげて創立されました。日本ＡＡＬＡは、この原則に従い、植民地解放運動と連帯し、その後もあらゆる覇権主義、大国主義とたたかってきました。これらの原則を進める非同盟諸国運動に参加してきました。2017 年の第 53 回大会でもこの意義を確認し、運動方針の第一項目に各国の主権の擁護をかかげ、いかなる側からであれ、あらゆる覇権主義や干渉主

義とたたかい、連帯することを決めました。植民地支配や帝国主義との長い闘いのなかで勝ち取られ、国連憲章にも確立された主権の尊重、民族自決権の尊重の原則こそ、国際関係と世界平和の基礎となる原則です。

ベネズエラをめぐっては国内的、国際的にさまざまな事態が進行中ですが、私たちはこうした運動の歴史と方針に照らして、ベネズエラ問題はベネズエラ国民自身で解決するという原則を守ることが何よりも大切だと考えます。いかなる形であれ、いかなる理由であれ、外部からの干渉は、問題を複雑にし、危機をさらに深め、ベネズエラ国民自身による解決の道に大きな障害となることはイラクやシリアをめぐる最近の事態でも明らかです。私たちは、外部からの圧力や干渉を許さず、ベネズエラの与野党双方が自主的な対話と民主的なプロセスで問題の解決に取り組めるよう国際社会は努力すべきだと訴えます。
（以上）